・特集・

宮城県図書館を核とした次世代育成の試み

――H19. 文部科学省 地域に役立つ図書館サービスモデル事業――

「22世紀を牽引する叡智の杜づくりプロジェクト――宮城県図書館を核とした次世代育成の試み」は、平成19年度文部科学省「地域の図書館サービス充実支援事業」のモデル指定を受けました。本号ではこの3月まで、本館が市町村図書館、学校、地域などと連携して取り組んだ「叡智の杜づくりプロジェクト」の成果について紹介します。

叡智の杜づくりプロジェクトが目指すもの
――地域モデルづくり・人づくり・テキストづくり

この「叡智の杜づくりプロジェクト」は、宮城県図書館に蓄積された叡智の集積を活用し、次代を担う人たちに自信と誇りを持って語れるふるさとや日本の歴史、文化をしっかりと伝えていくことをねらいとし、市町村図書館、学校教育現場、社会教育施設、民間団体等との連携のもと、地域に役立つ図書館のあり方を探ろうとするものです。

本館では平成16年度を初年度にこれまでも「22世紀を牽引する叡智の杜づくり事業」として、地域との連携のもと、貴重資料の展示会や講演会、学校での特別授業などを実施してきました。

今年度は文部科学省が推進する「地域の図書館サービス充実支援事業」のモデル事業の指定を受けて、これまで以上に地域への広がり、学校との連携を目指し、多彩な事業を行いました。

本プロジェクトは「地域モデルづくり」「人づくり」「テキストづくり」の3つの柱で構成し、右のⅠからⅤの5つの事業を推進しました。とくに、「地域モデルづくり」ではプロジェクトの核となる拠点として、具体的な市町村図書館、学校、地域センターを設定し、図書館の「叡智」を活用した事業を行いました。

このプロジェクトは東北工業大学教授・矢内諭氏を委員長とする実行委員会（事務局：宮城県図書館）が実施主体となりました。

叡智の杜・地域モデルづくり

Ⅰ 地域プロジェクト支援事業 《地域拠点》=白石市図書館

市町村図書館が地域拠点となり、地域の歴史･文化資料の掘り起こしによる「叡智の杜展示会&セミナー」の開催。次世代への啓発活動の実施。

Ⅱ 学校支援推進事業 《地域拠点》=宮城県松山高等学校

学校が地域拠点として、教員や図書館司書との連携による「叡智の杜展示会&特別授業」の開催と地域への開放。

Ⅲ 地域サービス推進事業 《地域拠点》=登米地域広域連携

市町村図書館、公民館等の地域の社会教育施設、学校、関係機関等との連携による「叡智の杜展示会&セミナー」の開催。

叡智の杜・人づくり

Ⅳ 人材育成事業 《事業主体》=宮城県図書館

叡智の杜づくりを効果的に推進するために、セミナー、特別授業などの実践者や講師（=チューター）を対象に、図書館のあり方や資料等についての研修、情報交換などの実施。

叡智の杜・普及啓発用テキストづくり

Ⅴ 普及啓発事業 《事業主体》=宮城県図書館

「叡智の杜展示会&セミナー、特別授業」等で活用する副読本『みやぎの叡智―宮城県図書館貴重書の世界―』の編集･発行。本プロジェクトの成果をガイドブック（報告書）として発行。

●叡智の杜･地域モデルづくり

Ⅰ 地域プロジェクト支援事業 《地域拠点》=白石市図書館

白石市図書館は大正3年（1914）、「明治記念文庫」として設立された歴史のある図書館で、同記念文庫収蔵資料や白石城主･片倉家ゆかりの古文書などを継承しており、「幼児から高齢者まですべての市民の生涯教育の場として、資料や情報を収集し、提供し、"市民の役に立つ図書館"の実現」を目指しています。

子どもに読書を、そして、ふるさと再発見を――

『猩々の図』を特別展示

資料説明を受ける来場者

白石市では、平成19年10月に「白石市子ども読書活動推進計画」を策定しその記念行事として、12月2日、白石市中央公民館を会場に「志茂田景樹隊長の読み聞かせ&講演会～親子で楽しむ!　きずなが深まる!」を開催しました。図書館ボランティア、子育てにかかわる教育委員会、子ども家庭課、健康推進課の担当職員とも連携した運営がなされました。

また、白石市図書館は平成19年度の重点目標として「郷土資料の充実と郷土に対する正しい理解を支援する」ことを掲げました。これを受けて、本プロジェクトによる事業として「地元作家を知る月間（11月）」を開催、白石市出身の小野勝美氏（拓版画家、作家）の著作の展示会と講演会を行いました。

12月には、「古典への誘い in 白石 」をテーマに白石市図書館が所蔵する『猩々ノ図』（白石出身の画家･小関雲洋（こせきうんよう）が描いた板戸絵）や宮城県図書館所蔵の『国宝源氏物語絵巻（複製）』、浮世絵『名所江戸百景（複製）』展示会を12月8日から14日まで開催。ギャラリートークでは白石市博物館建設準備室の学芸員と白石市図書館職員、宮城県図書館司書が展示解説を行いました。

満席となった講演会々場

12月22日の「第7回　白石歴史おはなし会」では宮城県図書館･伊達宗弘館長が「武将歌人　伊達政宗と白石」と題して講演を行いました。「白石歴史おはなし会」は白石市図書館が地元の「白石古文書の会」等のメンバーとの協働で開催しているセミナーで、「北の地で力強く根づいた真田一族」「片倉家と仙台藩の幕末」など年間9講座（毎月1講座開催）が行われました。

講演する志茂田景樹さん

担当者の声

たくさんのいい経験をさせていただけたと思っています。何よりも人の輪が広がったこと、図書館でも工夫次第でできるということ、そして市民は図書館の支援者、パートナー。もっと工夫すれば、「行政」と「市民」をつなぐ架け橋になれる気がします。そして、そこにも「図書館」の大きな可能性が見えて来そうな予感がしています。

（司書／樋口 貴子）